

和牛放談

N「明けましておめでとうございます。本年は丑年でありますので大いに和牛に付いて語ってみたいと思います」

W「畜産に神武景気が訪れた感じがしますが、この景気にも色々の問題があつて手離しで喜ぶ訳にも行かないようです。何にしても牛が高いと言うことは豊作に次いでよろこばしいことで、今まで改良とか、増産に四苦八苦したかひがあつて、牛個体の形質も著しく改良され、さらに消費流通と併せて飼育農家が飼い方に不断の努力をされた賜で、この点敬意を表したいと思います。」

N「近年和牛がよくなったと言われるが、さてどこがよくなったか振りかえって見たいのですが」

W「一言にして評言することは難しいのですが、行政指導と相俟つて種畜の充実や、登録事業の普及によって改良の目標が示され形質が揃つたこと、なかでも、体積、被毛、背腰は著しく改良されたと思います。昔は前軀が勝つて皮膚や被毛は黒く粗厚で斑や簾毛が多く、やや小格で晩熟でありましたが、この晩熟は産地の特質でもあり賞揚されたものでした。」

N「私は需要地の立場からみて岡山の牛は決して晩熟ではないと思う。飼育技術の点にあつたのではないか、優良な飼料を充分に与えると他県産のものより発育がよいので岡山の牛が賞揚される原因であつたのではないか、ところが産地で我こそは和牛人なりと天狗になる牛を引渡すときその牛の生たち、飼い方、購買後の利用の目的等を考えて、一言この牛はよくなりますよと付け加えることがさらに岡山の和牛のよさを發揮するのではないのでしょうか。」

W「和牛の経済性がとかく話題となりますが農業経営からみた経済性を1つ」

N「農業経営そのものが自給という考え方から大きく商品生産という形態へ転換してきたのだから、和牛も従来のように一頭飼いで耕種農業の副業的な意味での形では、当然経済性が問題になると思います。」

家畜そのものの収益を如何に増やすかということが新しい主畜農業の考え方で、この意味からも和牛の多頭飼育を強力にすすめる必要があります。今後の肉資源としての和牛需要は非常に大きなものがありますので、仔牛の増産、多頭肥育等による収益性は相当高いものになると考えられます。」

N「今後和牛を繁殖するうえの方策を伺いたいと思いますが。」

W「何としても生産を増やすことでしょう。これには先ず第1に現在繁殖雌牛の35%が空胎であることが問題で、これについて100%種付をはかつて、現在ある資源での最大限の増産をはかること。」

次には和牛関係で一番おこなっている生産基盤、これは特に放任されている広大な牧野冬の間飼料確保のためのサイロ、干草さらに畜舎等の施設を指すわけですが、これを整備強化して多頭飼育の形へ次第にもっていき、効率的な生産をはかつてゆかなければなれないと思います。いずれにしても大家畜の増産は、一朝一夕には困難ですが、特に他の家畜に比べて相当おこなっている生産基盤を早く整備することが大切でしょう。」